



開物成務

令和7年3月19日(水)発行

校長 津田 千由美

“すてきさん”が『つくる・そだてる』じまんの学校

♪ 明日へつなぐもの ♪

3月12日(水)、「6年生おめでとう集会」が開かれました。全校の子どもたちが適度な緊張感をもち、静寂な雰囲気の中で会が始まりました。

1～5年生による呼びかけや歌は大変迫力があり、6年生への感謝の気持ちが伝わるものでした。また、会の中で、各学年の代表者から6年生へプレゼントが渡されました。プレゼントは、1～5年生の子どもたち一人ひとりが、6年生へ心を込めて書いた言葉のメッセージです。2階渡り廊下に全員のメッセージが張り出されており、6年生も時々足を止めて読んでいます。「がんばってよかったな」「うれしいな」きっと、あたたかい気持ちに包まれていることでしょう。

いろんなところへ
一緒に行ってくれ
てありがとう。ず
っと大好きだよ。
中学校に行っても
がんばってね。
(1年生)

6年生が運動会の
時に大きな声で応
援してくれて、一
生懸命がんばるこ
とができました。
(2年生)

始めは掃除をや
って全然話せなかつ
たけれど、その時
に6年生がやさし
く話してくれたの
で、今は話せるよ
うになりました。
(3年生)

ご卒業おめでとう
ございます。組立
体操かっこよかつ
たです。一緒に遊
んでくれてありが
とうございます。
中学校でもがんば
ってください。
(4年生)



5年生から6年生へ

「6年生おめでとう集会」は、すべて5年生が企画・運営しました。「6年生に喜んでもらえる会にしよう」という目標に向かって、一人ひとりが自分の役割を自覚し、3か月間主体的に動いてきました。在校生との練習の場面では、実行委員の子どもたちが、今日の練習の振り返りと次への課題点について、自分たちの言葉で伝えていた姿が印象的でした。

卒業式の呼びかけの中に

「開成小学校の伝統を引き継ぎます」

という言葉があります。その言葉を具現化したようなすばらしい会になりました。

指揮者として、6年生に今までの思いを込めて「明日へつなぐもの」(歌の題名)を渡したいという気持ちがありました。家でも空いている時間に練習したり、ピアノの音に合わせたりすることは大変だったけれど、本番は6年生にすてきな歌を届けられたので良かったです。(5年生感想)



6年生から在校生へ

「6年生おめでとう集会」では、6年生からも、1～5年生へメッセージと歌の披露がありました。心のこもった発表によって、全校みんなで感動を分かち合うことができました。

また、6年生は、総合的な学習の時間などを使って、学校中をきれいに清掃したり、各学級へのプレゼントとしてオルガンカバーを製作したりしました。学年の子ども

たちが喜びそうな図柄を考えていることから、6年生の思いやりを感じます。



夢をつなぐ～BELL DREAM PROJECT～



3月10日(月)5年生を対象に、初の試み「BELL DREAM PROJECT」を実施しました。これは、子どもたちに「夢を持つこと、その夢に向かって努力することの大切さ」を伝えることを目的に、湘南ベルマーレフットサルクラブが企画した授業実践です。

当日は、湘南ベルマーレフットサルチームスタッフの藤田さん、伊久間さんが来校し、各学級2時間ずつ授業をしてくださいました。

まず1時間目は、体育館でのアクティビティ。体を動かすいくつかのミニゲームを通して、スタッフから出された課題を自分たちで解決していく活動でした。

「みんな一直線に並んで、そこから10歩前進します。」

クラスみんなが一直線に並んで止まること。チャンスは5回」

最初はてんでバラバラ。そこで、作戦会議を開きました。

「真ん中の人に歩幅を合わせればいいよ」

「いやいや、それは難しい。体育館の青線をめざして10歩で

歩けばいいよ」

「みんな、ふざけないで真剣にやろう」

など、互いの考えを伝え合いました。小さな修正を重ねて問題解決しながら、最後は目標達成！

2時間目は、教室で自分の夢と向き合う時間でした。その時間に語られたスタッフの体験談は、とてもインパクトのある内容でした。

「目標を設定したら、後悔しないように思ったことを全部やる」

「目標を達成するためにはフットサルだけをやっているだけではダメ。コミュニケーションをとるための語学力や丈夫な体を作るための食事の勉強、トレーニング方法など、何を努力するかを具体的に考える」

この授業で学んだことや夢実現へのプロセスを、子どもたちは一人ひとり「夢チケット」というカードにまとめました。そして、この「夢チケット」は、今後本当の観戦チケットになる予定です。

スタッフの語りの中に、「本気になる！」というフレーズが幾度となく出てきました。最後のメッセージは特に感動的でした。

「継続は力なりということわざがありますが、ただ何となく続けているだけでは、本当の力はつかないと思います。私は『本気の継続は力なり』だと思います」

5年生の子どもたちの心に響く授業でした。



わたしのひとりごと

地域の方から、とてもすてきなお手紙をいただきました。

「3月7日の15時頃、3歳の子どもと一緒に散歩をしていた時のことです。それぞれ別のタイミングで、小学校3・4年生くらいの3人の児童と出会ったのですが、どの子も気持ちの良い挨拶をしてくれました。一人の子は、子どもにもバイバイと手を振ってくれました。もう一人の子は、後ろから自転車で私たちを追いつく形だったにも関わらず、挨拶をしてくれました。近所づきあいなどは、昔より希薄になってきている今の世ですが、挨拶はやはり大切だなと思いました。私の子どもも、ゆくゆくは開成小学校に入学するので、3人の児童のように気持ちの良い挨拶ができる子になってほしいと思いました。」

子どもたちのすてきな行動は、将来開成小に入学するであろう3才のお子さんに受け継がれていくことでしょう。

「恩送り」という言葉があります。恩をくれた人ではなく、別の人に送るという意味です。子どもたちのさわやかな挨拶は、まさに「恩送り」です。「恩返し」は、恩をいただいたその方との「1対1」の関係性で成り立つものですが、「恩送り」は、顔の知らない誰かに対して今すぐにできる優しさのバトンです。

学校だより「わたしのひとりごと」は、今年度最後となります。かつて自分自身が子育て中にできなかったことや気づかなかったことなどを思い起こしながら、お届けしてきました。「あーあの時、こうすればよかった」という後悔の想いが今でもありますが、少し心のゆとりがある今だからこそ、伝えられることでもあります。少しは皆様への恩送りになったでしょうか。これからも、小さな優しさの連鎖によって、開成小学校がさらに優しい学校になることを祈っています。